彙　　報

会長　松本克己

平成4年度第1回常任委員会

日　時：平成4年4月18日（土）　午後1時半～6時半

場　所：三省堂出版局

出席者：松本克己（会長），角田太作（事務局長），荻野綱男，崎山　理，長嶋善郎，仁田義雄

オブザーバー：柴谷方良（編集委員長），上野善道，土田　滋（以上，会計監査委員），黒沼　裕（大会運営委員長代理）

議　事

（1）　平成3年度決算について．

決算報告・監査報告があり，質疑が行なわれた．

（2）　平成4年度予算について．

予算案を審議し，具体案を作成した．

（3）　第104回大会（平成4年度春季大会）について．

講演者・研究発表者などの大会の詳細を決め，プログラムを決定した．

（4）　第105回大会（平成4年度秋季大会）について．

関西外国語大学で10月10～11日に開催する予定である．

（5）　言語研究の編集について．

柴谷編集長から，新しい投稿規定・執筆要項の提案があり，審議した．論文にキーワードをつけることは全員一致で了承された．執筆要項については，さまざまな修正案が出された．

（6）　その他．

〈あ〉　寄贈図書の取り扱いについて．

今，三省堂の事務局にある寄贈図書をどうするか，審議し，神田外語大，

明海大学などに引き受けてもらえるかどうか，たずねてみることにした．また，東京外国語大学ＡＡ研にある言語学会からの寄贈図書についての取り扱いについて協議し，ＡＡ研の所蔵図書と重複するものについては，その処分をＡＡ研に一任することにした．

〈い〉 Language & Literature への広告について．

「言語研究」との間で相互に広告を載せないかという申し入れがあったが，広告は認めない方針なので，断わることにした．

〈う〉 プログラムの形式について．

掲示板などに掲示するために，大きなサイズのプログラムを作る案について審議した．プログラム作成費用（17～18万円）の問題があるので，掲示にも携帯にも使えるような形式にすることで三省堂と協議することにした．

〈え〉 予稿集について．

荻野氏から南山大学で行なったアンケートの結果の報告があり，会員の要望が強いことはわかったが，なおさまざまな問題があり，継続的に審議していくことになった．

〈お〉 国際語用論学会の後援について．

後援の依頼があり，了承された．

〈か〉 危険に陥っている言語について．

土田　滋氏から，endangered language についての国際的な集会があったことが紹介され，その方面の研究を言語学会として支援するよう要請があり，言語学会としてもこれを支持することを確認した．

平成４年度第１回委員会

日　時：平成４年６月６日（土）　午前10時～午後１時

場　所：神田外語大学 1394 大会議室

出席者：松本克己（会長），竹内和夫，井出祥子，井上和子，梅田博之，荻野綱男，奥津敬一郎，尾上圭介，菊地康人，柴田　武，下宮忠雄，城生佰太郎，鈴木孝夫，角田太作，長嶋善郎，原口庄輔，湯川恭敏，阿部

泰明，小泉　保，清水克正，筧　壽雄，近藤達夫，崎山　理，佐藤昭裕，柴谷方良，庄垣内正弘，徳川宗賢，西田龍雄，西光義弘，林　栄一，藪　司郎，吉田和彦（以上，32名）

委任状：32名.

オブザーバー：土田　滋，上野善道（以上，会計監査委員）

大会運営委員長井上和子氏から挨拶があった.

議　事

（1）平成3年度の決算報告があり，質疑の上，了承された.（別表1参照）

これは，1992年4月18日，会計監査委員土田　滋，上野善道両氏より適正であると認められたものである.

（2）平成4年度の予算を決定した.（別表2参照）

（3）第105回大会については，10月10日（土）から11日（日）に関西外国語大学で行なわれることが決定された．これに伴い，大会運営委員長小泉保氏から挨拶があった.

（4）「言語研究」の編集方針について，編集委員長柴谷方良氏から投稿規定の改訂と執筆要項の提案があり，議論および一部修正の上決定された.

（5）日本言語学会に送られてくる寄贈図書の取り扱いについて審議し，すでに東京外国語大学AA研に預けてある分については，正式に東京外国語大学の図書として受け入れてもらうことになった．また，現在三省堂内の事務局においてある分についてもAA研に受け入れてもらう方向で交渉を進めることになった.

（6）柴田　武氏から，日本学術会議について以下の報告があった．①ケベックでの国際言語学者会議に参加する件では，日本学術会議から旅費が出ることになった．また，日本代表として参加することにより，今後5年間，CIPLのrepresentativeをつとめることになる．②14期の勧告の取り扱いについては，文部省，日本科学会議で議論され，国立大学の研究費が増額されるほうに向かうだろう．③15期の課題として「国際貢献」がうたわれた．そこで土田　滋氏から消滅の危機に瀕した言語の話が出て，それを支援する方向に動き出した.

（7） 言語学用語集について，会長および小泉　保氏からこれまでの編集の経緯について説明があり，言語学・英語学関係者の手によって7,280項目に及ぶ最終案がまとまり，3月末に文部省学術調査局へ提出されたことが報告された．

（8） 土田　滋氏から危機に瀕した世界の諸言語についての会議があったことが報告され，それらの言語の研究の推進に対して，言語学会として全面的に支持することが了承された．

（9） 土田　滋氏から，SOASの廃止というニュースが報告され，日本言語学会として抗議の手紙を送ることになった．

(10) 柴谷方良氏から，第4回国際語用論学会が1993年7月25日から30日まで神戸で行なわれる，という案内があった．アジアで初めて開催されるものであり，日本言語学会として協賛することが決定された．

(11) 会長から，1993年8月22日から28日に香港で行なわれる第34回アジア・北アフリカ研究国際会議（旧東洋学者会議）の紹介があった．

(12) 文部省科学研究費「日本語音声」による国際シンポジウムについて，予定の変更があったことが報告された．

〔別表1〕 平成3年度　日本言語学会決算

自 平成3年4月　至 平成4年3月　　(単位　円)

収入		支出	
科目	金額	科目	金額
B 会費	9,392,900	1 刊行費	5,714,540
C 雑誌売上	1,339,355	2 編集費	400,000
D 文部省補助金	480,000	3 学会事務センター委託費	2,096,699
E 預金利子	43,715	4 大会関係費	880,178
F 雑収入	111,799	5 委員会費	100,000
		6 常任委員会費	249,460
		7 CIPL負担金	67,400
		8 選挙関係費	0
		9 通信費	134,329
		10 事務費	378,614
		11 設備費	0
		12 事務局職員謝金	700,000
		14 予備費	0
		15 雑費	0
収入合計	11,367,769	支出合計	10,721,220
A 前期繰越	1,049,962	次期繰越	1,696,511
		[含 13 記念事業費繰り延べ	500,000]
計	12,417,731	計	12,417,731

◇ 支 出 内 訳

1) 刊 行 費	100 号	割付・校正料	330, 480
	200 p.	印 刷 費	2, 402, 000
		小 計	2, 732, 480
	101 号	割付・校正料	426, 060
	228 p.	印 刷 費	2, 556, 000
		小 計	2, 982, 060
		合 計	5, 714, 540
3) 学会事務センター委託費	業務委託費		1, 592, 682
	発送料，コピー代，通信費等（会員カードの印刷費含む）		504, 017
		計	2, 096, 699
4) 大会関係費	第 102 回	プログラム割付・校正料	168, 000
		プログラム・出欠葉書印刷費	86, 520
		大 会 費	245, 000
		小 計	499, 520
	第 103 回	プログラム割付・校正料	148, 000
		プログラム・出欠葉書印刷費	87, 035
		大 会 費	145, 623
		小 計	380, 658
		合 計	880, 178

〔別表 2〕 平成4年度　日本言語学会予算

自 平成4年4月　至 平成5年3月　　(単位円)

収入		支出	
科目	金額	科目	金額
A 会費	10,500,000	1 刊行費	5,500,000
C 雑誌売上	1,200,000	2 編集費	400,000
D 文部省補助金	480,000	3 学会事務センター委託費	2,300,000
E 預金利子	10,000	4 大会関係費	1,000,000
F 雑収入	0	5 委員会費	150,000
		6 常任委員会費	300,000
		7 CIPL負担金	80,000
		8 選挙関係費	0
		9 通信費	200,000
		10 事務費	600,000
		11 設備費	0
		12 事務局職員謝金	720,000
		13 記念事業費 (言語研究100号記念号)	1,000,000
		14 選挙関係等準備積立金	700,000
収入合計	12,190,000	15 予備費	900,000
A 前期繰越	1,696,511	16 雑費	36,511
計	13,886,511	計	13,886,511

第104回大会

期　日　平成4年6月6日（土）・7日（日）

会　場　神田外語大学

第1日（6月6日）

開会の辞　午後1時30分より

公開講演　日本語生成文法の30年——個人的回想　黒田成幸（カルフォルニア大学サン・ディエゴ校）

The grammar of psych-verbs and the notion of 'intentional subject'　Nicolas Ruwet（パリ第八大学）

会員懇親会　午後5時30分～7時30分

第2日（6月7日）

研究発表　午前10時～12時20分

◦A 会場

（A 1）10：00～　日本語における「XはYがZ」という形式の文の分類——日本語の情報構造に関する帰結——　中村洋

（A 2）10：30～　現代日本語の自発の意味的・統語的特徴　堀川智也

（A 3）11：20～　日本語の格助詞「を」の省略にみられる Silverstein の名詞句階層について　皆島博

（A 4）11：50～　格助詞の獲得について——「が」「を」を中心として——　宮田裕子

◦B 会場

（B 1）10：00～　引用文からみた発話行為の持続性と一時性　中園篤典

（B 2）10：30～　A cognitive approach to negative polarity　中村渉

（B 3）11：20～　Does Ralph believe that Ortcutt is　芦田利恵子

spy？
認知を前提とした信念文の意味論的分析

（B 4） 11：50～ 副詞的前置詞句の長距離移動の可能性について　鈴木博雄

◦C 会場

（C 1） 10：00～ ポルトガル語における関係詞 *que* の記述に関する問題点　坂東照啓

（C 2） 10：30～ バンツー語にみられる一再帰代名詞の考察　片田・房

（C 3） 11：20～ ムンダ語未完了相 ta/aka の相違について　長田俊樹

（C 4） 11：50～ Alamblak 語の呼応と所有者上昇について　岩本遠億

研究発表　午後1時40分～4時00分

◦A 会場

（A 5） 1：40～ 外来語用文字のタイプ　鹿島英一

（A 6） 2：10～ 日本語「ト」付き引用文の情報伝達構造　北上光志

（A 7） 3：00～ 透明性の仮説について
——日本語の統語解析の観点から——　坂本　勉

（A 8） 3：30～ 意味言語から見た主語について　安藤司文

◦B 会場

（B 5） 1：40～ 依頼の理解度・丁寧度を左右するもの　小林正佳

（B 6） 2：10～ 「感謝」と「詫び」の言語表現と表現意図：日英比較　三宅和子

（B 7） 3：00～ 言語行動における「丁寧さ」の談話組織レベルからの分析：対話者間の力関係による相違　——日本語の場合——　宇佐美まゆみ

（B 8） 3：30～ 日本語と韓国語の聞き手敬語の対照研究
——職場と近隣の人間関係——　荻野綱男　金　東俊

梅田博之
羅　聖淑
盧　顕松

◦C 会 場

（C 5）	1：40～	漢語諸方言における声母の構造的対立について（続）	山崎雅人
（C 6）	2：10～	モンゴ語動詞における文法的同音異義	湯川恭敏
（C 7）	3：00～	類型論的観点による調音位置の階層性について	乾　秀行
（C 8）	3：30～	閉鎖子音の音声的特徴の言語間比較について	清水克正

閉会の辞

◇　受贈図書リスト（平成3年12月1日～4年5月31日）

音声学会会報　第198号-1991，第199号-1992　（日本音声学会　1991～92）

神奈川大学言語研究　No. 14　（神奈川大学言語研究センター　1991）

紀要（言語，文学編）第24号　（愛知県立大学外国語学部　1992）

計量国語学　18巻3号-1991，18巻4号-1992　（計量国語学会　1991～92）

言語科学　第27号　（九州大学言語文化部言語研究会　1992）

言語学大辞典　世界言語編

第2巻（中）-1989，第3巻（下-1）第4巻（下-2）-1991

（三省堂　1989，1991）

言語文化研究　18　（大阪大学言語文化部　1992）

現代日本語の語構成論的研究――語における形と意味――（斎藤倫明著）

（ひつじ書房　1992）

現代日本に関する情報・資料の米国への提供：課題と展望

（国際交流基金日米センター　1991）

言文だより　No. 9　（大阪大学言語文化部　1992）

国語学　167-1991，168-1992　（国語学会　1991～92）

ことばとそのひろがり　『立命館法学』別冊　（立命館大学法学会　1992）

ことばのアスペクト　第2号-1983，第3号-1988

第4号-1990，第5号-1991

（京都産業大学言語研究会1983，1988，1990～91）

国語表現研究　第4号　（国語表現研究会　1991）

語学教育研究論叢　第8号　（大東文化大学語学教育研究所　1991）

宗教研究　290　第65巻　第3輯-1991

291　第65巻　第4輯-1992　（日本宗教学会　1991～92）

専修　語学ラボラトリー論集　第20号　（専修大学 LL 研究室　1991）

武庫川女子大学　言語文化研究所年報　第3号　（武庫川女子大学　1991）

大東文化大学英米文学論叢　No. 23　（大東文化大学英文学会　1992）

朝鮮学報　第百四十一輯-1991，第百四十二輯-1992　（朝鮮学会　1991～92）

通信　第73号　（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所　1991）

展示会ガイド　No. 23　（コンベンション・フォーラム　1992）

東京外国語大学論集　第43号-1991，第44号-1992

（東京外国語大学　1991～92）

東方学　第八十三輯　（東方学会　1992）

東方学会報　No. 61　（東方学会　1991）

東北大学言語学論集　第1号　（東北大学言語学研究会　1992）

東北大学文学部日本語学科論集　第1号　（東北大学文学部日本語学科　1991）

東洋学報　第73巻　第1・2号　（東洋文庫　1992）

日本学術会議月報　第32巻11月～12月号-1991，第33巻1月～4月号

（日本学術会議広報委員会　1991～92）

日本語教育通信　第9号-1991，第10号-1992

（国際交流基金日本語国際センター　1991～92）

日本民俗学　188　（日本民俗学会　1991）

広島女学院大学英語英米文学研究　創刊号

（広島女学院大学文学部英米文学科　1992）

文学研究　第89輯　（九州大学文学部　1992）

法政大学文学部紀要　第37号　（法政大学文学部　1991）

みんぱく　12月号-1991，1月～5月号-1992（国立民族学博物館　1991～92）

明海大学外国語学部論集　第3集

（明海大学外国語学部紀要編集委員会　1990）

山口国文　第15号　（山口大学人文学部国語国文学会　1992）

山口大学教養部紀要　人文科学篇　第25巻　（山口大学教養部　1991）

山口大学文学会志　第42巻　（山口大学文学会　1991）

立正大学国語国文　第28号　（立正大学国語国文学会　1992）

立命館言語文化研究　3巻2号-1991，3巻3号～6号-1992

（立命館国際言語文化研究所　1991～92）

論集　49　（神戸大学教養部　1992）

Acta Asiatica 62　（東方学会　1992）

African Urban Studies (Shun'ya Hino) I, II
(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所　1990)

ArOr Vol. 59 4　(Academia Praha　1991)

Bulletin No. 133 No. 134-1991, No. 135-1992
(The Linguistic Society of America　1991～92)

English Linguistics　Vol. 8　(日本英語学会　1991)

The Function and Development of Prefixes and Particles in Three Early English Texts (Yoshinobu Niwa)　(金星堂　1991)

Idun X　(大阪外国語大学デンマーク・スウェーデン語学科研究室　1992)

Language Vol. 67 No. 4-1991, Vol. 68 No. 1-1992
(The Linguistic Society of America　1991～92)

Litteratura 12　(名古屋工業大学外国語教室　1991)

Naše Řeč 4 5-1991, 1-1992
(Academia nakladatelství Československé akademie věd　1991～92)

Slovo a Slovesnost LII 4
(Československá Academie Oriental Institute Čsav　1991)

◇　平成4年度春の叙勲において，本学会会員柴田　武氏は，勲三等旭日中綬賞を受賞されました．本学会として，心よりお祝い申し上げます．

◇　本誌は，文部省平成4年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を得て刊行されたものである．